

# 国民生活基礎調査匿名データ（高等教育関係）を用いた解析実習と効果：質的内容分析

高橋由光（京都大学大学院医学研究科健康情報学分野）

## 【要約】

- ・ 公的統計の匿名データ高等教育目的で国民生活基礎調査匿名データを用いて実習を行い効果を検討する
- ・ わかりやすい資料を含む解析実習にて実データを用いるという実経験の重要性が示された
- ・ 専門職育成プログラム（公衆衛生大学院等）の解析実習において匿名データの利活用が可能である

## 【背景】

統計データの利用促進を図るため、2009年より公的統計の匿名データの高等教育関係の利用が認められた。基幹統計である国民生活基礎調査の匿名データの利用も可能であるが、高等教育関係においてその利用実績は乏しい。高等教育目的で、国民生活基礎調査匿名データを用いてデータ解析実習を行い、その効果を検討した。

## 【方法】

2018年12月に京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻（公衆衛生大学院）にてデータ解析実習（講義名：健康情報学II）を行った。公的統計の二次的利用の規制の必要性および推進のバランス、調査対象の秘密保護について講義を行ったのち、国民生活基礎調査（2010年）匿名データBを用いて、調査票、データレイアウト及び符号表の理解、csvファイルの読込、JMPを用いたダミー変数作成・記述統計・ロジスティック回帰分析等を行った。なお、グループワーク形式で実施した（1グループ毎（5-6名）、スタンドアロンPC1台、CD1枚）。講義後、参加者より公開の可否を含みフィードバックを受け、講義資料とともに公開した（<http://bit.do/eUqrm>）。公開されている情報を解析し、フィードバックの自由回答に対しては質的内容分析を行った。

## 【結果】

参加者29名（教員等、ティーチングアシスタント含む）、回答者は22名であった。授業に対する総合評価は、とてもよかった16名、よかった6名であった。

### ＜質的内容分析の結果＞

わかりやすい資料とグループワークにより、質問項目理解・データハンドリングの重要性が認識され、統計解析・ソフトのスキル向上につながり、実データを用いることの実験の重要性が示唆された。

初耳だった「匿名データ」であったが、ビッグデータ解析への期待もあり、新規申出の意欲や研究への活用につながる可能性があった。

公的統計の貴重さが認識されたとともに、さらなる周知、質問項目改善、地理情報活用、厳しいセキュリティの緩和への希望も見られた。

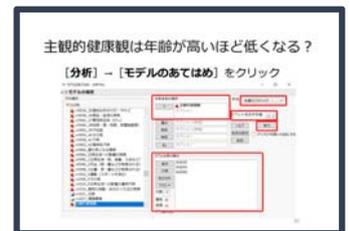
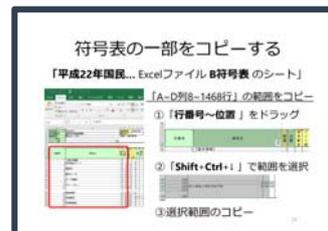
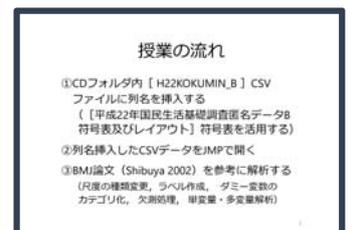
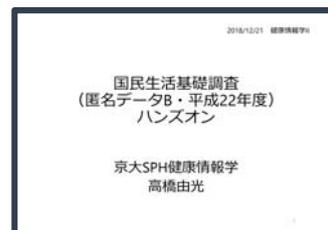
## 【結論】

公的統計、匿名データの利活用への認識は低かったが、解析実習にて実データを用いるという実経験の重要性が示された。匿名データへの改善希望もみられた。公衆衛生大学院のような専門職を育成するプログラムにおいて、匿名データの利活用が有用であると考えられる。



Scan QR code!

<http://bit.do/eUqrm>



【COI】 演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

【連絡先】 [y-takahashi@umin.ac.jp](mailto:y-takahashi@umin.ac.jp)

第78回日本公衆衛生学会総会 2019/10/23-25@高知